



私立大学情報教育協会  
平成27年度 大学職員情報化研究講習会  
基礎講習コース報告



C-3班

HAPPY Lab.



発表テーマ

**大学が世の中の幸せをつくる！  
ハッピーファクトリー！**





## そもそもの大学の役割ってなんだろう？

学校教育法第83条によれば・・・

「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的としている」

### ▶ 「教育」「研究」「社会貢献」の3本柱

この3本柱に共通することはなに？

それは「**人の幸せをつくる**」こと。

教育・・・学生がより良く生きていけるように  
研究・・・文化・社会が発展していけるように  
社会貢献・・・まちに住む人々がより良く生きていけるように

**大学 = ハッピーファクトリー**

3



## 人の幸せをつくるために、大学ができること

### ■ そもそも「幸せ」とはなんなのか、長期的視点で、 クリティカル（批判的）に考えていける力を養う（学生・教員・職員共に）

→ 本当の幸せってなに？ お仕着せ・既成の「幸せ」に急かされがち。

- ・【教育】大企業への就職だけが幸せ？
- ・【研究】目先の利益を得られる研究だけが評価される？
- ・【社会】過疎化は悪？ 都市化率を上げて人口が集中したコンパクトシティをつくるのは？

### ■ ダイバーシティ（多様性）を受け入れる度量をもつ（学生・教員・職員共に）

→ 「役に立つから価値がある」「無駄なものには意味がない」という

画一的な価値観でいいの？

- ・大学は、利益至上主義である社会から隔離された「アジール」（聖域）である。  
効率化が極度に進む現代社会だからこそ、大学でだけは無駄なことをどんどんしよう！

### ■ 自分たちで社会を創っていかうとする意志・

### パッションをもった人材を育む（学生・教員・職員共に）

→ イノベーションはパッションから生まれる。

**「教養」の最後にして最大の砦**



しかし！今は…

## 社会背景が大学の役割を 規定してしまっている



「実学教育にこそ価値がある！」  
「文学部？役に立たん学部やんけ！」  
「大卒の質を保証しろ！」  
「即戦力を送り出せ！」  
「社会人基礎力を身につけさせろ！」  
「就職力を強化しろ！」

盲目的  
画一的  
一方的

➡ 過保護・過剰サービスに走る大学たち…

5



本来は？

## 社会背景が大学を創るんじゃない！ 大学が社会を創るんだ！



あおしまー

最高学府としての誇りを持とう！  
世の中の幸せを創る「ハッピーファクトリー」としての原点に立ち戻ろう！

6



## 現状の課題

**社会**  
(外部  
ステーク  
ホルダー)

地域

企業

**強制**

規定「こうありなさい！」

**大学**  
(内部  
ステーク  
ホルダー)

「自分が!自分が!」で、  
相手が見えていない  
組織

学生

教員の負担大

教員

職員

・サービスの提供を受けるだけの受動姿勢  
・手取り足取りなんでもやってもらえる  
・お客様扱い、子ども扱い

→パッションがない  
クリティカルな視点がない

・研究時間が確保できない  
・学生指導が非効率  
→忙しすぎる

・教育は教員におまかせ  
・一部職員の「自分たちは事務屋」根性  
→パッションがない  
クリティカルな視点がない



## 課題解決の基本方針

### ハッピーファクトリーとしてなすべきことはなに？



大学構成員（学生・教員・職員）がそれぞれに  
良きパッサーとなって、相互のウィークポイントを  
補うようなパスを出せるようにする。

ハッピーのサイクルがまわって、三者がwinwinの関係になる  
(三方良し)

ハッピーサイクルの中で育った学生が、社会に出て新しい  
幸せのカタチを創造していく。



## 課題解決後の姿～ハッピーサイクル稼働～

### 社会

(外部  
ステーク  
ホルダー)

地域

企業

共生

社会の誇り「大学が言うなら間違いない」  
クレジット（信用）がある状態

新しい幸せのカタチを創造

### 大学

(内部  
ステーク  
ホルダー)

ハッピーファクトリー  
としてハッピーを産み  
出している

学生

教員の負担減

教員

職員

● 大学構成員として認める  
(学生の視点を活かす)

- ・大学経営に参画させる  
ex.『大学改革案コンペ』  
「大学を変えるのは君だ！」
- ・SD、FD研修の企画・運営者として迎える
- ・広報部隊として大学広報を担ってもらう

● 教育力・研究力の向上努力  
(教員しかできないことに特化)

- ・IRによる大学間連携ネットワークの活用
- ・FD強化 (学生ボランティアアドバイザーが  
聴講し、意見をフィードバック等)

● アドミニストレーターとしての  
自覚をもつ(教員負担減)

- ・大学経営を担う
- ・学生への人間教育を担う



## 課題解決後の姿 (別の角度から)

学生

- 大人たちに認められているという実感
- 自分たちが大学をつくっているという自負

職員

- アドミニストレーターとしての自負
- 高度専門職へのキャリアアップの可能性  
アドミッション・オフィサー  
カリキュラム・コーディネーター等
- 学生にしっかり見られているという緊張感

教員

- 本分に集中できることによる精神的余裕
- 学生にしっかり見られているという緊張感

対地域

対企業

社会を牽引していく集団として見られ、  
強いクレジット（信用）がある状態。  
【「強制」から「共生」へ】

アクション  
パッション  
コミュニケーション

モチベーション

イノベーション  
(新しい幸せの  
カタチの創造)



## 補足

### 課題解決の基本方針

大学構成員（学生・教員・職員）がそれぞれに  
良きパスサーとなって、相互のウィークポイントを  
補うようなパスを出せるようにする。

Blog「内田樹の研究室」自立と予祝について 内田樹氏（神戸女学院大学名誉教授）  
[http://blog.tatsuru.com/2010/11/08\\_1254.php](http://blog.tatsuru.com/2010/11/08_1254.php)

『私たちは自分が欲するものを他人にまず贈ることによってしか手に入れることができない。  
（中略）それはボールゲームで「受け取ったボールをワンタッチで予想外の多彩なコースに  
パスするファンタスティックなプレイヤー」のところにボールが集まるのと同じ原理です。  
受け取ったボールを決して手離さないプレイヤー、受け取ったボールをつねに同じコースに  
しかパスしないプレイヤーにはそのうち誰もパスしなくなる。』

▶ 損を恐れず、まずパスを出すことで、ハッピーサイクルを  
まわしていきたいものですね。

11



## ごあいさつ

ご清聴ありがとうございました



C-3班「HAPPY Lab.」